

[002] 学生法政論集表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/13869>

出版情報：学生法政論集. 2, 2008-03-25. 九州大学法政学会
バージョン：
権利関係：

編集後記

この企画も2年目となります。ことしは、応募の数も内容ももう少し盛り上がってほしいような感じはありましたが、掲載論文はそれぞれに評価できるところがありました。

本論集への掲載が皆さんの今後の励みになることを期待しています。(M. A.)

今回は提出された論文を査読の上、必要に応じて加筆修正をお願いした。その要望に応え、ずいぶん改善されたと思う。しかし、まだ投稿数が少ないので、投稿の時期や方法については編集委員会で再検討し、より多くの学生が積極的に投稿できる環境を整えることが必要であろう。(MD)

皆さんの論文を読んでいると、カット・ペーストによらない、「自分らしさの表現の楽しさ」と、独りよがりにならない、「分かりやすい表現の難しさ」との狭間で、頑張っておられる姿がよくわかります。これは、論文書きの永遠の課題です。この矛盾を楽しみましょう。(酢)

ここに結実した作品を書いたみなさんは、論文を書くことの「辛さ」だけでなく、「喜び」を実感したと思います。これからも少しでも多くのみなさんが、その「喜び」を経験できるような『学生法政論集』に、みんなで育て上げていきましょう。(爺)

応募の数が少なかったのは若干残念ですが、それぞれ力作でした。特に、2年生・3年生が法律論文を完成させるのは大変ですが、将来を予感させる出来映えでした。いっそうの努力を期待したいと思います。(SO)

現在、アメリカ大統領選挙のまっただ中である。私の愛するノース・カロライナ大学のロースクール出身のジョン・エドワーズ候補(民主党)は、先頃、選挙戦から離脱し、現在、民主党の大統領候補指名をめぐって、ヒラリー・クリントンとバラック・オバマとが鎬を削っている。共に、ロースクール出身で弁護士経験者。両者の共通項は、ロースクール在学中に、著名な法律雑誌(イエール・ロー・ジャーナル、ハーバード・ロー・レビュー)の編集長を務めたこと(アメリカでは、大学紀要は、原則として学生が編集する。)。前者が、女性初の編集長であり、後者が、アフリカ系アメリカ人初のそれであった。ともかく、そのような余裕を許す学びの環境が存在することに驚嘆と羨望を感じる。時代は変わる。大学も変わった。しかし、海外旅行の機会の取得でも外部資金の獲得でもなく、「学問の力=業績=論文のインパクト」で評価される時代が過去のものとなった「この世界」で、せめて、大学に身を置け限り、学生・院生の皆さんには、学の世界や社会に対して、新たな知を発信する志をもち続けて欲しい。(SK)